

エクストリームシリーズ 2015 奥大井大会

奥大井大会 3名カテゴリー 優勝チームコメント

風神雷神 杉田 明日香さん

序章 風神雷神ができるまで

「海外レースに出るときに、日本ってすぐわかるチーム名がいいなあ。」とたけぶーさんと私は話していた。2015年、春の小川での会話である。

そんな春を経て、風神雷神というチーム名で今年は年間エントリーをした。ちなみに、昨年(2014年)は、とれいるざんまいのチームメンバーとして、たけぶーさんと私は一年間レースに出場してきた。とれいるざんまいのメンバーは、久保田さん、杉山さん、たけぶーさん、私。「苦しくも楽しく」をモットーに鍛えてもらい、苦ししみながらも念願の年間シリーズ優勝を果たした。2013年、2014年のとれいるざんまいでのレース戦歴があるから、今がある。私たち風神雷神は「とれいるざんまい Jr.」といっても過言ではないのである。

風神雷神は、エクストリームシリーズ 2015 の総合優勝をした。たくさんの仲間を支えられてきたから、素敵な結果を出すことができた。そんな思いが強かったので、一年間のレースを振り返りながら、一緒にレースに出てくれた仲間感謝の気持ちを伝えたい。

第一章(4月11日 那珂川大会 たけぶーさん、淳平さん、明日香)

ゴール後の淳平さんの笑顔が忘れられない。

淳平さんとは、2014年の秋に初めてお会いした。トレランをやっていて、アドベンチャーにも興味があると聞いていたので、参戦をお願いした。淳平さんはアドベンチャーレースをやると決めてからすぐにMTBを買い、地図読み講習などにも積極的に出られていた。その熱い思い、尊敬するとともに共感します！最初からダッシュし、最後の最後まで走り続けた私たち。ラストまで淳平さんのパワー溢れる走り、本当に素敵です。最後のCPを取った後に私は舗装路の溝に落ち、あごを負傷。国土舘大学の救急隊の方に診て頂いた。ありがとうございました。また、一年間に渡って経過も観察して頂き、感謝いたします。

第二章(5月 9日 奥多摩大会 たけぶーさん、剣士さん、明日香)

パワーレースになることが予想されていた。初めて一緒に組んで頂く剣士さんは、ハイパーアスリート。最高のパワーで押して押して押して頂いたり、天然ストック(落ちてる木)をさりげなく渡してくれたり、たくさんフォローして頂きありがとうございました。

第三章(6月20日 伊南大会 充さん、秀人さん、明日香)

充さんのパワーと秀人さんのさりげない気遣いに本当に助けられた大会だった。充さん、秀人さんといると、自然と笑顔になります。本当に心から安心して楽しいのです。ありがとうございました。分水嶺トレイル(4つの分水嶺と4つの百名山を3日以内で進む縦走大会。沿面距離84km、累積標高差8000m)が楽しくなることを確信しました。(この大会後に分水嶺トレイル大会に充さん、秀人さんと参戦しました。)

昨年度の尾瀬大会から場所が変わり、初めての伊南大会。急遽出れなくなったたけぶーさんに代わって、充さんに参戦をお願いした。カエルとりをした後に、スタッフさんからパスポートを受け取ることを忘れてしまう。10分程走った所でハッと気づき、ダッシュで戻る。あの舗装路は長く感じましたね。城跡でのCP探しは、何度も地図と方角を確認し、進む。その後はガッツリ山登り。多くのチームとともに、ヒーハーいいながら登る。この瞬間が楽しいのである。

第四章(9月 5日 奥大井大会 たけぶーさん、剣士さん、明日香)

「CP4が勝敗を分ける。」地図をもらった瞬間に、たけぶーさんが言った。きっと、どのチームもそう感じていたはずだ。そして、本当にその通りだった。

今回のレースは年間総合優勝がかかっている。3戦を終えて、年間ランキングトップのとれいるざんまいとは2ポイント差。なんとなく、意識してしまう。今回のレースは、1st STAGE と2nd STAGE に分かれている、ステージレースだ。CP8が1st STAGE のゴールであり、この場所で指定された時間の電車に乗るために、どのチームも一時休憩をとらねばならない。初めてのルール。なかなか、ワクワクする。

CP1 から CP2 へ向かう途中、落石が多数発生。私たちより下にいる人には大声でそのことを伝える。夜、バンガローで打ち上げをしている時に聞いた話だが、紳士・消防士のたきざんていさんは、落石現場の CP1 の神社の辺りで「ここは落石が多数あります。頭上を注意して進みましょう！」と的確なアドバイスを周囲の参加者に伝えていたそう。さすが、たきざんていさん。その後、CP5 の天狗岩山頂まで永遠に登る、登る、登る！！登りは、落ちていた木をストック代わりにして使う。非常に快適で、天然ストック素晴らしい。しかし、途中で折ってしまい、「あ～あ」と思った次の瞬間、剣士さんが「はい」と。あら、新しい天然ストック！私が折ったことに気づいて、すかさず新しいものを拾ってくれたのだ。ああ、本当に気遣って頂きフォローしてくれて。。ありがとう、剣士さん。と思いきや、今回の核心部である CP4 は 1160m の小ピークだ。随時、現在地を把握するために高度を確認する。たけぷーさんが「剣士さん、今どのくらいですか？」と聞き、剣士さんが「 m だよ」と答える。そのやりとりを 3 回ほど繰り返す。1160m 付近の手前にある、地図に表現されない小ピーク後の鞍部から CP4 に向けて高度を変えずに横に移動する。「おっ！」ピンポイントでありましたぜー！ポストに入っているカードは、なんと 1 枚のみ！これは EAST WIND が投函したものだ。あれ、他のチームは？？と思いつつ、登る。CP4 を取ったあとは、登山道に戻らず CP5 (天狗山山頂) に向けて尾根に登る。(たけぷーさん談。) CP4 を取って 5 分程進むと、EAST WIND の次をキープしているはずのコナウインの姿が、まだ CP4 を取っていない様子である。でも、すぐ追いつかれるんじゃないか...とドキドキしながら進む。

CP5 で EAST WIND のタイムを見ると、なんと 20 分差。これ以上差が開かないように、今度はガツガツ下る、下る、下る！楽しいねー、この道。MTB 乗りたいねー。とテンション上がりながら CP8 を目指す。CP8 はカヌー。二人が漕いで、私は真真中に座る。川の流れが速く、ボヤボヤしているとすぐ に下流に流されてしまう。5 分ほどでカヌーは終わり、「もっと乗りたいなあ」と素直に思った。CP8 では、スタッフの皆さまと Kei's Power! の田中さんの息子さん・岳歩くん(小 5) が待っていてくれた。彼の目には、我々アドベンチャーレースをしている大人たちはどのように見えるのだろうか。「大人って、なんて楽しいのだろう。本気で遊ぶのって楽しそうだな」とおぼろげに感じていてくれたらとても嬉しい。そんなことをまたボンヤリと思った。

CP9、CP10 はクイズの答えを確認しながら進む。公共温泉施設のおかみさんに質問し、さらっと正解に辿り着く。そして、1st STAGE のゴール！すでに EAST WIND は芝生で寛いでいた。次々と仲間たちがゴールし、芝生での談笑タイム。私たちが乗る予定の電車は、あと 2 時間後。ゆっくりしよう。ここで多くのチームと交流でき、また、1st STAGE をがんばっている方々を応援もでき、なんだかとてもまったりとして素敵な時間となった。

電車の時刻より少し早めに CP8 を出発し、大井川鉄道に乗る所から 2nd STAGE がスタートする。大井川鉄道は、ヘルメットをした大人たちがわんさか。窓からコース上の道が見える。あ、裕子さんとたきざんていさんだ！がんばれー！大井川鉄道のガタゴトのリズムと、速さと、車窓からの眺め、思わずうとうとしちゃうくらい至福の一時だった。

電車を降りて道に出たらダッシュ！ルールでは指定された 2 駅のうち、どちらの駅で降りても良いこととなっている。私たちは、奥泉駅で下車する。その先の川根小山駅の方が、走る距離は短いのだが、CP11(スタート&ゴール地点)で MTB に乗る。CP12、CP13 を取り、CP14 への林道で EAST WIND とすれ違う。さわやかな笑顔でかっこよかった。CP15 の砂地では、MTB がまっすぐ進まない。でも、剣士さんは進んでいるし速い。さすがすぎます。よし、あとはゴール目指してこぐだけだ。

ゴールが近づくにつれ、なんだか寂しいような、悲しいような、そんな気持ちが湧いてきた。不思議な感覚だ。「風神雷神」というチーム名で年間エントリーを決めて、1 年間(4 戦)レースに参加してきて、どのレースも良かったなあ。素敵な人たちと組ませて頂いてありがたかったなあ。と、MTB のペダルを一步一步踏みながら、しみじみと感じてしまったのである。いかんいかん、まだレースは終わっていないのだった。と我に返る。ふと前を見ると、剣士さんの「こっちだぜー！」という満面の笑顔が見える。横を見ると、たけぷーさんが「ああ、いよいよ終わるね」と穏やかな笑顔で話しかけてくれた。そうですね、いよいよ終わる。寂しく思いつつも、また次なるステージが待っている。きっと、ワクワクが待っている。そんなことを思いながら、ゴールテープをきった。剣士さん、たけぷーさんと一緒に。ありがとう、幸せだー！！

結果:総合優勝

エクストリームシリーズ 2015 総合優勝(全 4 戦)

お礼

風神雷神と一緒に組んで頂いた皆さま、最高の時間をありがとうございました！！

- ・たけぷー(武井正幸さん):ナビゲーションの神。たけぷーさんがいれば、どんな所でも行けます。
- ・秀人さん(早川秀人さん):気遣いの神。秀人さんがいれば、どんな時でも楽しめます。
- ・充さん(渡辺充さん):バランスの神。ナビもMTBもパワーも、どれも最強のパフォーマンス! 充さんがいれば、なんだか安心です。
- ・淳平さん(鈴木淳平さん):コミュニケーションの神。淳平さんがいれば、色んな人と会うことができます。
- ・剣士さん(小畑剣士さん):パワーの神。剣士さんがいれば、どんな山でも登れます。

最終章

アドベンチャーレースはいつも一つのドラマのようである。私が一戦一戦のレースの中で「ありがとう、 さん」「 さんがね、この時にこうしてくれて…」などなどと感じているように(助けられてばかりですね)、それぞれのチームにドラマがあり、人間模様を感じるができる。私はレース後に、雑談しながらそれらの話を聞いたり聞いてもらったりすることが大好きだ。アドベンチャーレースの魅力については、以前のコメント(エクストリームチャレンジ in 四国の右下 2014 のリザルト内の参加者コメントにて)で書かせて頂いたが、そのことを今、改めて実感している。

風神雷神で一年間レースに参戦してきて、改めて感じたことがある。仲間が最高!! その一言に尽きる。自分一人の力では絶対登りきれない道とか、自分一人の力では諦めちゃうような場面でも、支えてくれてフォローしてくれて励ましてくれる仲間がいるから、がんばることができる。更に、自分一人では到達できない領域とか、自分一人の考えでは思いつかなかった考えを知ることとか、仲間がいるから新たな自分を開拓できる。それに加えて、出会ったの人たちの素敵なおところに沢山触れることができ、それだけで私はとても嬉しい。

アドベンチャーレースを通じて、幸せを感じる瞬間にたくさん出会った。那珂川大会では、地図を片手にガツガツ走っているときに、のったりとした春風にふと気づく瞬間。奥多摩大会では、汗だらだらでMTB 乗っているときに、ふっと心地よい夏の香りがした瞬間。伊南大会では、田んぼの中でカエルの声と大人の笑い声とがコラボレーションしている瞬間。奥大井大会では、ゴール目前に見た仲間の頼もしい背中と笑顔になぜか鳥肌がたった瞬間。あげればきりが無い程、私の心にはそういう瞬間がたくさん刻まれている。そんな風を感じさせてくれた仲間の皆さま、一緒に組んで頂いた仲間の皆さま、ありがとうございます。そして、我部さんをはじめスタッフの方々には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。素敵なお時間をありがとうございました。